

日本史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時
日本史概論	日本史概説1	2	堀 裕 柳原 敏昭 籠橋 俊光	3	火	3
日本史概論	日本史概説2	2	堀 裕 柳原 敏昭 籠橋 俊光	4	木	2
日本史基礎講読	古代史料講読	2	堀 裕	4	火	4
日本史基礎講読	中世史料講読	2	柳原 敏昭	4	火	2
日本史基礎講読	近現代史料講読	2	安達 宏昭	3	水	4
古文書学	中世古文書読解入門	2	柳原 敏昭	3	火	2
古文書学	近世古文書読解	2	籠橋 俊光	4	水	4
日本史各論	日本古代史の研究と方法 (1)	2	堀 裕	5	金	2
日本史各論	日本中世社会の研究	2	七海 雅人	6	金	1
日本史各論	近世社会の研究	2	籠橋 俊光	6	金	2
日本史各論	日本近現代史研究の現状と 課題 (1)	2	安達 宏昭	5	水	2
日本史各論	歴史資料保全の実践	2	佐藤 大介	集中 (5)		
日本史各論	公田官物率法の社会的影響	2	佐藤 泰弘	集中 (5)		
日本史演習	古代史料の研究 (2)	2	堀 裕	5	火	2
日本史演習	古代史料の研究 (1)	2	堀 裕	6	火	2
日本史演習	古代史料研究 (1)	2	堀 裕	5	金	3
日本史演習	古代史料研究 (1)	2	堀 裕	6	金	3

日本史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 Semester	曜日	講時
日本史演習	鎌倉時代の法と社会(1)	2	柳原 敏昭	5	月	3
日本史演習	鎌倉時代の法と社会(2)	2	柳原 敏昭	6	月	3
日本史演習	日本中世史の研究 (1)	2	柳原 敏昭	5	月	4
日本史演習	日本中世史の研究 (2)	2	柳原 敏昭	6	月	4
日本史演習	近世史料研究 (1)	2	籠橋 俊光	5	火	4
日本史演習	近世史料研究 (2)	2	籠橋 俊光	6	火	4
日本史演習	近世史研究法 (1)	2	籠橋 俊光	5	水	5
日本史演習	近世史研究法 (2)	2	籠橋 俊光	6	水	5
日本史演習	近現代政治・社会史の研究 (1)	2	安達 宏昭	5	水	3
日本史演習	近現代政治・社会史の研究 (2)	2	安達 宏昭	6	水	3
日本史演習	近現代史研究法 (1)	2	安達 宏昭	5	火	5
日本史演習	近現代史研究法 (2)	2	安達 宏昭	6	火	5
日本史実習	史料整理・保存の理論と方法	2	籠橋 俊光	5	金	4・5
日本史実習	史料整理実習	2	籠橋 俊光	6	金	4・5

科目名：日本史概論／ Japanese History (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

Semester : 3, 単位数 : 2

担当教員：堀 裕, 柳原 敏昭, 籠橋 俊光, 安達 宏昭 (教授・准教授)

講義コード：LB32301, 科目ナンバリング：LHM-HIS201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

日本史概説 1

2. Course Title (授業題目)：

Lecture on Japanese History 1

3. 授業の目的と概要：

本講義の目的は、「都市」をとりあげ、日本史の概要と特色を明らかにすることにある。「都市」とは一般に、人や物、情報が行き交う交通の結節点であり、農村とは異なる景観をもつと考えられる。このような「都市」がなくては、そもそも国が成り立たないことから、「都市」を考えることは、国家や政治を考えることでもある。また、「都市」に暮らす人々の生き生きとした様子から、差別や自由といった歴史の深層を探り当てることもできる。このように、多面的な魅力を持つ「都市」ではあるが、そもそも「都市」とは何かを問うこと自体、研究史上の論点でもあった。これらの点をふまえつつ、具体的な歴史資料を通して、歴史的に「都市」を学ぶことの意義を論じていくこととする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

In this course, students understand overview and the features of Japanese history.

5. 学習の到達目標：

日本の歴史の概要を学ぶこと

6. Learning Goals (学修の到達目標)

The purpose of this course is to help students see overview and the features of Japanese history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス (柳原)
2. 近現代 1 (安達)
3. 近現代 2 (安達)
4. 近現代 3 (安達)
5. 近世 1 (籠橋)
6. 近世 2 (籠橋)
7. 近世 3 (籠橋)
8. 中世 1 (柳原)
9. 中世 2 (柳原)
10. 中世 3 (柳原)
11. 古代 1 (堀)
12. 古代 2 (堀)
13. 古代 3 (堀)
14. 歴史学における都市 (安達)
15. まとめと試験 (堀・籠橋)

8. 成績評価方法：

授業に対する意見提出などの授業への参加 (30%)・試験 (70%)

9. 教科書および参考書：

随時プリントを配布する。

10. 授業時間外学習：

配布されたプリントや参考文献を、授業後に復習のために、見直したり、読んだりする。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

受講生が極めて多い時には、受講登録完了後、受講生の抽選を機械的に行うことがある。その場合、文学部・文学研究科の学生の受講を優先する。

なお、講義関する面談を希望する者は、担当教員まで連絡すること。

科目名：日本史概論／ Japanese History (General Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

semester：4, 単位数：2

担当教員：堀 裕, 柳原 敏昭, 籠橋 俊光, 安達 宏昭 (教授・准教授)

講義コード：LB44201, 科目ナンバリング：LHM-HIS201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

日本史概説 2

2. Course Title (授業題目)：

Lecture on Japanese History 2

3. 授業の目的と概要：

本講義では、「人物」を通して、日本史の概要や特色を学ぶことを目的とする。「人物」をとりあげることによって、ある人物の判断が歴史を動かす場面を目の当たりにしたり、市井の人物の人生が、歴史の変動によって翻弄される場面を目撃することになる。人が歴史をつくり、歴史によって人がつくられる点を現代の私たちが実感しつつ、あわせて「人物」から歴史を学ぶことの意義も考えたい。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In this course, students understand overview and the features of Japanese history.

5. 学習の到達目標：

日本の歴史の概要を学ぶこと

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The purpose of this course is to help students see overview and the features of Japanese history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス (安達)
2. 古代 1 (堀)
3. 古代 2 (堀)
4. 古代 3 (堀)
5. 中世 1 (柳原)
6. 中世 2 (柳原)
7. 中世 3 (柳原)
8. 近世 1 (籠橋)
9. 近世 2 (籠橋)
10. 近世 3 (籠橋)
11. 近現代 1 (安達)
12. 近現代 2 (安達)
13. 近現代 3 (安達)
14. 歴史学のいま (柳原)
15. まとめと試験 (堀・籠橋)

8. 成績評価方法：

授業に対する意見提出などの授業への参加 (30%)・試験 (70%)

9. 教科書および参考書：

随時プリントを配布する。

10. 授業時間外学習：

配布されたプリントや参考文献を、授業後に復習のために、見直したり、読んだりする。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

受講生が極めて多い時には、受講登録完了後、受講生の抽選を機械的に行うことがある。その場合、文学部・文学研究科の学生の受講を優先する。

なお、講義関する面談を希望する者は、担当教員まで連絡すること。

科目名：日本史基礎講読／ Japanese History (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

semester：4, 単位数：2

担当教員：堀 裕（教授）

講義コード：LB42401, 科目ナンバリング：LHM-HIS205J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

古代史料講読

2. Course Title (授業題目)：

Introductory reading of ancient historical materials

3. 授業の目的と概要：

日本古代史に関する基礎史料の講読を行う。日本古代の格（単行法令）を載せる『類聚三代格』など古代史に関する史料を取り上げる。受講生は史料を読解し、各自報告を行う。これにより、歴史史料読解の能力を養う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In this course, students will learn basic historical materials on Japanese ancient history.

5. 学習の到達目標：

日本古代の漢文史料の読解力を身につける

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The purpose of this course is to help students learn how to read basic historical materials on Japanese ancient history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス 日本古代の文献史料について。史料講読のすすめかた。

2. 日本古代の文献史料を読む（1）

3. 日本古代の文献史料を読む（2）

4. 日本古代の文献史料を読む（3）

5. 日本古代の文献史料を読む（4）

6. 日本古代の文献史料を読む（5）

7. 『類聚三代格』を読む（1）

8. 『類聚三代格』を読む（2）

9. 『類聚三代格』を読む（3）

10. 『類聚三代格』を読む（4）

11. 『類聚三代格』を読む（5）

12. 『類聚三代格』を読む（6）

13. 『類聚三代格』を読む（7）

14. 『類聚三代格』を読む（8）

15. まとめ と試験

8. 成績評価方法：

筆記試験（50%）・授業への参加（50%）

9. 教科書および参考書：

講義中プリントを配付

10. 授業時間外学習：

配布された史料を講義の前に読んでおくこと、および復習を行うこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

科目名：日本史基礎講読／ Japanese History (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

Semester：4, 単位数：2

担当教員：柳原 敏昭（教授）

講義コード：LB42202, 科目ナンバリング：LHM-HIS205J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

中世史料講読

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Japanese Medieval historical Materials

3. 授業の目的と概要：

歴史学は実証の上に成り立つ学問であり、それを学ぶ者は歴史資料を的確に読みこなすことができなければならない。本講では、その第一歩として日本中世史に関する代表的な史料を講読し、基礎的な読解力を身につけることを目標とする。また、中世社会の特質についても考える。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Historiography is a discipline that stands on proofs. Students studying Historiography must be able to read historical materials accurately. As a first step, in this class, students read standard historical materials in the Middle Ages and gain the fundamental skills to read them. Students also consider the characteristics of Japanese medieval society.

5. 学習の到達目標：

基本的な中世史料を読解できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will develop basic reading skills to understanding historical materials of medieval Japan.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) ガイダンス
- 2) 学生による報告と討論
- 3) 学生による報告と討論
- 4) 学生による報告と討論
- 5) 学生による報告と討論
- 6) 学生による報告と討論
- 7) 学生による報告と討論
- 8) 学生による報告と討論
- 9) 学生による報告と討論
- 10) 学生による報告と討論
- 11) 学生による報告と討論
- 12) 学生による報告と討論
- 13) 学生による報告と討論
- 14) 学生による報告と討論
- 15) 授業のまとめ

8. 成績評価方法：

レポート [40%]・出席 [20%]・その他（授業中における発表の内容、議論への関与度） [40%]

9. 教科書および参考書：

講義時にプリントを配布する。

References are handed out at every class.

10. 授業時間外学習：

報告者はおおよそ2週間前から準備を始めること。報告にあたっていない学生も事前に史料を読み、疑問点・問題点を整理してから授業に臨むこと。

Students who are presenting are to prepare their presentations 2 weeks in advance. Students who are not presenting are to read the source materials and to prepare questions and comments before class.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

古文・漢文の基礎的読解力を要する。

It is recommended that participating students have basic skills in reading classical Japanese and Chinese.

科目名：日本史基礎講読／ Japanese History (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

semester：3, 単位数：2

担当教員：安達 宏昭（教授）

講義コード：LB33401, 科目ナンバリング：LHM-HIS205J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

近現代史料講読

2. Course Title (授業題目)：

Reading Japanese Modern Historical Documents

3. 授業の目的と概要：

日本の近現代史に関する史料（文書）を、輪読する形式で授業を進めていく。書かれている内容を理解するだけでなく、史料の歴史的意義の分析や、近現代史の基礎的な構造についての理解を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In this course, students will train reading historical documents of Japanese modern history. This course will be taught in Japanese.

5. 学習の到達目標：

- (1) 日本近現代史の史料について、読解し理解できるようになる。
- (2) 史料の読解を通して、日本近現代史を理解する上で基礎的な事柄について認識を深めることができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The purpose of this course is to help students read historical documents of Japanese modern history and better understand the basic structure of the Modern Japanese.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・大日本帝国憲法の特徴
2. 大日本帝国憲法体制の展開 (1)
3. 大日本帝国憲法体制の展開 (2)
4. 大日本帝国憲法体制の展開 (3)
5. 大日本帝国憲法体制の展開 (4)
6. 大日本帝国憲法体制の変容 (1)
7. 大日本帝国憲法体制の変容 (2)
8. 大日本帝国憲法体制の変容 (3)
9. 大日本帝国憲法体制の変容 (4)
10. 大日本帝国憲法体制の変容 (5)
11. 日本国憲法体制の形成と展開 (1)
12. 日本国憲法体制の形成と展開 (2)
13. 日本国憲法体制の形成と展開 (3)
14. 日本国憲法体制の形成と展開 (4)
15. 授業のまとめ筆記試験

8. 成績評価方法：

(○) 筆記試験[60%]・() レポート[] %・(○) 出席[20%]・(○) その他（レスポンスペーパーなど）[20%]

9. 教科書および参考書：

随時、プリントを配布する。

10. 授業時間外学習：

事前に配布された史料（プリント）を授業までに必ず読んでおく。

11. 実務・実践的授業/Practical business：○

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

履修要件：受講者は「近現代史料講読」の未履修者に限る。

オフィスアワー：水曜日 16：20～17：50、要予約

科目名：古文書学／Paleography

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

Semester：3, 単位数：2

担当教員：柳原 敏昭（教授）

講義コード：LB32202, 科目ナンバリング：LHM-HIS206J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

中世古文書読解入門

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Medieval Japanese Primary Documents

3. 授業の目的と概要：

古文書とは、差出人と受取人とが明示されている歴史的な文書をいう。身近な例で言えば、手紙、合格通知、入学許可書、授業料納入通知書、授業料領収書、学位記等が一定の年月を経れば古文書となる（日記や編纂物、文学作品等は古文書には含まれない）。古文書は、歴史研究にとって最も大切な史料である。本講では、中世の武家様文書を主な素材として、用字・用語に習熟するとともに、様式の展開についてはその歴史的背景についても学べるようにしたい。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Historical materials whose sender and recipient are clearly stated. This is the definition of ancient documents (komonzyo). For example, old letters, old acceptance notices, old admission letters, old tuition fee invoices, old tuition fee receipts, old degrees. However, diaries and compilations are excluded. Ancient documents are the most important historical materials for historical research. Students will develop basic reading skills and build a vocabulary crucial to understanding warrior documents of Medieval Japan. In this class, you will also learn about the form of the ancient document and their changes including historical backgrounds..

5. 学習の到達目標：

- (1) 中世の原文書を読解できるようになる。
- (2) 中世古文書学の基礎知識を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

- (1) Students will develop basic reading skills and build a vocabulary crucial to understanding original warrior documents of Medieval Japan.
- (2) Students will acquire the basic knowledge of diplomatics.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) ガイダンス①
- 2) ガイダンス②
- 3) 鎌倉幕府文書 下文
- 4) 鎌倉幕府文書 政所下文
- 5) 鎌倉幕府文書 御教書
- 6) 鎌倉幕府文書 下知状
- 7) 室町幕府文書 御判御教書
- 8) 室町幕府文書 御内書
- 9) 室町幕府文書 奉書系文書
- 10) 室町幕府文書 命令の下達・施行
- 11) 軍事関係文書
- 12) 戦国大名文書①
- 13) 戦国大名文書②
- 14) 讓状、起請文など
- 15) 授業のまとめと試験

8. 成績評価方法：

筆記試験 [60%]・出席 [20%]・その他（講義中における発表の内容と授業への参加度）[20%]

9. 教科書および参考書：

随時プリントを配布する。

References are handed out at every class.

10. 授業時間外学習：

受講者には毎回、古文書（写真版コピー）を筆写する課題が出される。

Students are required to prepare for the assigned part of the designated text (Pictures of ancient documents) for each class. They are also required to make a thorough review, mainly by completing assignments.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

古文・漢文の基礎的読解力を要する。

It is recommended that participating students have basic skills in reading classical Japanese and Chinese.

科目名：古文書学／Paleography

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

semester：4, 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光（准教授）

講義コード：LB43401, 科目ナンバリング：LHM-HIS206J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

近世古文書読解

2. Course Title (授業題目)：

Reading Early Modern Documents

3. 授業の目的と概要：

古文書は歴史学において最も重要な材料であり、その読解は必要不可欠な技術である。なかでも近世史研究においては、実際に膨大な原文書を読み、取り扱う能力が必要とされる。本講義は、近世古文書のなかでも代表的な文書様式について理解を深め、読解能力を培うものである。さまざまな近世の古文書が自力で読めるようになることを目標とするため、テキストとして配布する古文書（コピー）について毎回受講者の中から指名し、読みを発表させる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course is designed to help students understand the basics of reading early modern Japanese documents. Students are required to prepare for the assigned part of the designated handouts for each class. References (handouts) are provided.

5. 学習の到達目標：

(1)近世古文書に関する基礎的知識を持つ。(2)近世古文書の読解能力を養う。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will develop basic skills to reading early modern documents.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・近世古文書学について
2. 近世古文書の特徴と基礎的知識
3. 文字の読解法とその訓練
4. 武家文書 (1) 将軍関係文書・将軍発給文書①
5. 武家文書 (2) 将軍発給文書②
6. 武家文書 (3) 将軍発給文書③
7. 武家文書 (4) 老中発給文書①
8. 武家文書 (5) 老中発給文書②
9. 武家文書 (6) 幕府発給廻状
10. 町方・村方文書 (1) 定
11. 町方・村方文書 (2) 人別帳・検地帳
12. 町方・村方文書 (3) 年貢関係文書
13. 町方・村方文書 (4) 商業関係文書・訴願関係文書
14. 町方・村方文書 (5) 家・個人文書
15. 講義のまとめ・試験

8. 成績評価方法：

出席[30%]・筆記試験[60%]・その他（報告の内容など）[10%]

9. 教科書および参考書：

随時プリント配布。受講に際して古文書読解用の辞典類を用意すること。

10. 授業時間外学習：

予習として、事前に配布されたプリントの古文書を古文書解読辞典を用いて読解し、講義で読みを口頭で報告できるようにする。受講後、講義内容をもとに自らの読みを確認し、習熟に努める。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50（要予約）

科目名：日本史各論／ Japanese History (Special Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

semester：5, 単位数：2

担当教員：堀 裕 (教授)

講義コード：LB55201, 科目ナンバリング：LHM-HIS301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

日本古代史の研究と方法 (1)

2. Course Title (授業題目)：

Research and method of Japanese ancient history

3. 授業の目的と概要：

日本古代史に関する論文をとりあげ、講義を行うとともに、学生による論文講読を行う。講義はおもに東アジアと日本の古代宗教をとりあげる。それをふまえ、受講生は、古代史一般に関する論文を読み、論文の内容、その研究成果と課題、研究の背景について報告を行い、それをもとに参加者が討論を行う。これにより、日本古代史の研究成果を学ぶとともに、論文から何を読み取り、何を考えるべきかを学ぶこととなる。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course aims to improve the students' ability to read reports of ancient Japanese history. Students are required to prepare for the assigned part of the designated handouts. References(handouts) are provided.

5. 学習の到達目標：

日本古代史に関する論文輪読を通して、日本古代史に関する研究成果と研究方法を学ぶ。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

To gain the fundamental skills in reading reports of ancient Japanese history. Students can deepen their understanding of the ancient Japanese history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス 進め方と目的、評価方法についての説明
2. 論文を読む方法 1
3. 論文を読む方法 2
4. 論文を読む方法 3
5. 論文を読む方法 4
6. 論文講読 1
7. 論文講読 2
8. 論文を読む方法 5
9. 論文を読む方法 6
10. 論文を読む方法 7
11. 論文を読む方法 8
12. 論文を読む方法 9
13. 論文講読 3
14. 論文講読 4
15. まとめ

8. 成績評価方法：

出席と報告 (50%)・レポート (50%)

9. 教科書および参考書：

プリント随時配布

10. 授業時間外学習：

配付された論文を読むこと。報告者となっている場合は、レポートの作成をすること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

科目名：日本史各論／ Japanese History (Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 1 講時

Semester：6, 単位数：2

担当教員：七海 雅人 (非常勤講師)

講義コード：LB65101, 科目ナンバリング：LHM-HIS301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

日本中世社会の研究

2. Course Title (授業題目)：

Research on Japanese mediaeval society

3. 授業の目的と概要：

日本列島の中世社会 (平安時代後半～戦国時代・織豊時代) は、人々の個別的な結びつきのあり様が、社会のいたるところに顔をのぞかせるようになり、様々な局面において、自律的な動向や多様性を確かめることができる魅力的な時代と考える。この授業では、そのような中世の社会に関する基本的な文献や史料を読み込み、中世の社会に関する共通認識・到達点などを学習し、これからの課題や方法を探ってみたい。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

In the medieval society of the Japanese archipelago, people's personal relationships become common in society. In addition, we can see autonomous trends and diversity in various situations. In this class, students read standard book and historical materials in the Middle Ages and learn about the achievements of medieval society, and explore future issues and methods.

5. 学習の到達目標：

課題図書を読み、内容を整理し、関連する歴史事項や史料を調べることにより、日本中世史研究の文献・史料の検索と読解に関する基本的な方法・理解を修得することができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Students can acquire basic methods for reading Japanese medieval history research and historical materials by reading assignment book and examining relevant historical issues and sources.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) 授業のガイダンス
- 2) 課題図書の講読と史料研究 (1)
- 3) 課題図書の講読と史料研究 (2)
- 4) 課題図書の講読と史料研究 (3)
- 5) 課題図書の講読と史料研究 (4)
- 6) 課題図書の講読と史料研究 (5)
- 7) 課題図書の講読と史料研究 (6)
- 8) 課題図書の講読と史料研究 (7)
- 9) 課題図書の講読と史料研究 (8)
- 10) 課題図書の講読と史料研究 (9)
- 11) 課題図書の講読と史料研究 (10)
- 12) 課題図書の講読と史料研究 (11)
- 13) 課題図書の講読と史料研究 (12)
- 14) 課題図書の講読と史料研究 (13)
- 15) 課題図書の講読と史料研究 (14)、授業のまとめ

8. 成績評価方法：

報告の内容 (50%)、議論にかかわる発言の内容 (25%)、ミニレポート (25%)。

9. 教科書および参考書：

佐藤進一『日本の中世国家』(岩波現代文庫)

SATO Shinichi "Japanese Medieval State" (Iwanami Shoten)

10. 授業時間外学習：

□事前学習：課題図書や関係史料を読み、感想・疑問点などを整理する。報告者は報告資料を作成する。

□事後学習：授業の内容や報告資料などをもとに、課題図書や関係史料の内容について自分の考えを整理する。

Pre-learning: Students read assignment book and related historical materials, and organize their impressions and questions. The reporter prepares report materials.

Post-learning: Students organize their thoughts on the contents of assignment book and related historical materials based on the contents of classes and report materials

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

オフィスアワーについては開講時に説明する。

Office hours will be notified at the start of the course.

科目名：日本史各論／ Japanese History (Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光 (准教授)

講義コード：LB65201, 科目ナンバリング：LHM-HIS301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

近世社会の研究

2. Course Title (授業題目)：

Research in Early Modern Society

3. 授業の目的と概要：

日本近世史における代表的ないしは最新の論文を読み、理解し、それをもとに討論する。受講者は指定された論文を事前に読み、順番にレポーターとして要旨等を紹介し、討論に参加する。受講に際しては議論への積極的な参加を求めることになる。必要に応じ、学外の見学なども実施する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In this course, students can deepen their understanding of early modern Japanese society. Students are required to read the designated essays for each class. Positive participation in classes is expected.

5. 学習の到達目標：

- (1) 近世史の論文を読むことを通じて、日本近世史への理解を深める。
- (2) 報告、討論の方法を身につけ、自ら論文を執筆する基礎を養成する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

This is a seminar style course intended to allow students to have in-depth discussion between themselves so that they can acquire abundant knowledge and identify a research issue.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 受講者による報告と討論(1)
3. 受講者による報告と討論(2)
4. 受講者による報告と討論(3)
5. 受講者による報告と討論(4)
6. 受講者による報告と討論(5)
7. 受講者による報告と討論(6)
8. 受講者による報告と討論(7)
9. 受講者による報告と討論(8)
10. 受講者による報告と討論(9)
11. 受講者による報告と討論(10)
12. 受講者による報告と討論(11)
13. 受講者による報告と討論(12)
14. 受講者による報告と討論(13)
15. 全体のまとめ

8. 成績評価方法：

(○) 出席 [20%] (○) レポート [40%] (○) その他 (報告の内容・討論への取り組みなど) [40%]

9. 教科書および参考書：

講義中に指示する。

10. 授業時間外学習：

予習として、該当する論文を精読し、あわせて関連する論文を収集・読解し、当該論文の持つ研究史的意義について考察を加える。復習として、講義内容を踏まえつつ当該論文を再読し、習熟に努める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

オフィスアワー 火曜日 16：20～17：50 (要予約)

科目名：日本史各論／ Japanese History (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

semester：5, 単位数：2

担当教員：安達 宏昭（教授）

講義コード：LB53203, 科目ナンバリング：LHM-HIS301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

日本近現代史研究の現状と課題 (1)

2. Course Title (授業題目)：

Current status and problems about the study of Japanese Modern History (1)

3. 授業の目的と概要：

日本近現代史研究における現時点での到達点を理解するために、近年に刊行された岩波講座『日本歴史』シリーズ近現代編全 5 巻を読んでいく。今期は、第 15 巻（近現代 1）を読む。進め方は、受講者が順番にレポーターとなって、担当する箇所の要旨や内容の特徴を研究史と照らし合わせて報告し、その上で受講者全員によって討論する方式で行う。それにより、相互に認識を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In this course, students will read the recently published Iwanami Lecture "Japanese History" series to understand the current state of modern Japanese history research. This term, students read Volume 15 (Modern 1). Participants will become reporters in turn, reporting the gist of the part in charge and the characteristics of the content against research history, and discussing it. This aim is to deepen mutual awareness among students. This course will be taught in Japanese.

5. 学習の到達目標：

- (1) 日本近現代史に関する最近の講座論文を読解し、内容を理解できるようになる。
- (2) 講座論文の内容要旨を発表し、研究史の中に位置づけて、討論することができるようになる。
- (3) 最近の研究成果を通して、近現代史研究の現状と課題について、理解できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

- (1) Students will be able to read and understand recent lecture papers on Japanese modern history.
- (2) Students will be able to present the abstract of the dissertation, position it in the research history, and discuss it.
- (3) Through recent research re

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第 1 回：ガイダンスと日本近現代史研究の特徴
第 2 回：日本近現代史研究の方法
第 3 回：第 1 章「近現代史への招待」についての報告と討論
第 4 回：第 2 章「戊辰戦争と廃藩置県」についての報告と討論
第 5 回：第 3 章「地租改正と地域社会」についての報告と討論
第 6 回：第 4 章「殖産興業政策の展開」についての報告と討論
第 7 回：第 5 章「地方自治制と民権運動・民衆運動」についての報告と討論
第 8 回：第 6 章「北海道・沖縄・小笠原諸島と近代日本」についての報告と討論
第 9 回：第 7 章「官僚制と軍隊」についての報告と討論
第 10 回：第 8 章「文明開化の時代」についての報告と討論
第 11 回：第 9 章「教育・教化政策と宗教」についての報告と討論
第 12 回：明治前期に関する論文 1 についての報告と討論
第 13 回：明治前期に関する論文 2 についての報告と討論
第 14 回：明治前期に関する論文 3 についての報告と討論
第 15 回：まとめと総合討論

8. 成績評価方法：

() 筆記試験 [%] ・ (O) リポート [50%] ・ (O) 出席 [20%] ・ (O) その他（報告の内容、討論への取り組みなど） [30%]

9. 教科書および参考書：

(教科書) 岩波講座『日本歴史』第 15 巻（近現代 1）、岩波書店、2014 年。（参考論文）適宜、配布する。

10. 授業時間外学習：

上記の教科書や参考論文の指定された箇所を、事前に読んで、議論できるようにしておく。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

オフィスパワー：水曜日 16：20～17：50

科目名：日本史各論／ Japanese History (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

semester：集中 (5), 単位数：2

担当教員：佐藤 大介 (兼務教員)

講義コード：LB98805, 科目ナンバリング：LHM-HIS301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

歴史資料保全の実践

2. Course Title (授業題目)：

Passing on the Historical heritage on Tohoku area

3. 授業の目的と概要：

いま、人文社会学研究への「社会的要請」とは何か、ということが議論されています。日本史を学ぶ者にとっては、「先祖や地元の歴史を知りたい・伝えたい」という思いに応えることが、その一つといえるかもしれません。この講義では、地域社会に今なお膨大に残されている歴史資料を守り、伝えるための課題や、そのための実践を、座学、議論、および実際の地域での活動を通じて学んでいきます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

5. 学習の到達目標：

- ・過去の歴史資料保存をめぐる経緯を踏まえながら、地域社会に残された歴史資料を継承するための課題を学びます。
- ・講義を通じて、「社会にとっての歴史研究者の存在意義とは何か」ということを自ら考える力を付けます。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 「歴史史料保全活動」の経緯①—終戦直後～1960 年代
2. 「歴史資料保全活動」の経緯②—1970 年代～1990 年代
3. 「歴史資料保全活動」の経緯③—1990 年代～現在
4. 史料保全活動の課題①—報告 1
5. 史料保全活動の課題②—報告 2
6. 史料保全活動の課題③—討論
7. 地域の歴史資料を守る①—文書資料の応急処置・洗浄
8. 地域の歴史資料を守る②—文書資料の応急処置・乾燥
9. 地域の歴史資料を守る③—文書資料の応急処置・修復
10. 地域の歴史資料を守る④—保管環境を整える
11. 地域の歴史資料を守る⑤—所蔵者のお話をうかがう
12. 地域の歴史資料を守る⑥—所蔵者との対話
13. 地域の歴史資料を守る⑦—史料の整理
14. 地域の歴史資料を守る⑧—デジタルカメラでの撮影・管理
15. 地域の歴史資料を守る⑨—まとめ

8. 成績評価方法：

- ・平常点 (出席、討論への参加) (40 パーセント)
- ・レポート (60 パーセント)

9. 教科書および参考書：

- ・奥村弘『大震災と歴史資料保存』(吉川弘文館 2011 年)
 - ・平川新・佐藤大介編『歴史遺産を未来へ』(東北大学東北アジア研究センター報告 2012 年)
 - ・奥村弘編『歴史文化を大災害から守る 地域歴史資料学の構築』(東京大学出版会 2014 年)
- ほか、講義中指示する。

10. 授業時間外学習：

- ・東日本大震災で被災した、歴史資料の救済・保全活動のボランティアが、東北大学災害科学国際研究所で行われている。一連の活動に継続して参加し、交流を深めることは、本講義の内容を、真に体得するために有用である。
- ・上記の参考文献、およびそれらに引用されている関連文献に、可能な範囲で目を通しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

- ・講義の後半、大学を離れた地域での講義となる。全日程参加出来るよう予定を調整しておくこと。なおそれらにかかる実費は、受講者の負担とする。

科目名：日本史各論／ Japanese History (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

semester：集中 (5), 単位数：2

担当教員：佐藤 泰弘 (非常勤講師)

講義コード：LB98806, 科目ナンバリング：LHM-HIS301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

公田官物率法の社会的影響

2. Course Title (授業題目)：

Social impact of taxation in the Heian period

3. 授業の目的と概要：

10 世紀後葉における公田官物率法の成立と、それが社会に及ぼした影響について論じる。平安時代は日本史における古代から中世への移行期と考えられており、研究の蓄積も分厚く、多様な論点がある。そのなかでも国衙行政の変貌、領主制の成立、荘園制の成立は、社会経済史においても地方支配を考えるうえでも重要な論点であり、個々に明らかにされた事柄は多い。しかしそれら相互の連関が明らかになっているとは言えない。そこでこの講義では、公田官物率法の成立に象徴される徴税制度の変化を論理的な起点として、諸制度の関連性を考えてみたい。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course introduces and discusses the reform of the tax system in the later 10 th century Japan and the impact those changes had on Japanese society. In Japanese history studies, the Heian period has traditionally been treated as a transitional stage between the ancient times and the medieval period, and as such, it has been studied from various angles. The related research areas in socioeconomic history include inquiries into the system of local administration, the manorial system, and the shōen system. Much has been discovered about each of those important subjects, but their interrelationship still remains largely obscure. This course is designed to fill in this gap by allowing students to explore the tax system reform of the later 10 th century and the resulting changes in the structure, functioning and effects of the system of local administration, the manorial system, and the shōen system.

5. 学習の到達目標：

平安時代の地方制度や地域社会について理解を深めるとともに、諸制度の連関を論理的に構築することの面白さを発見する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Through this course, students will gain a deeper understanding of the structure and functioning of the local administrative mechanism and local communities; students will also be able to trace and reconstruct connections between various bureaucratic systems.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1：平安時代社会経済史の課題
- 2：受領の時代
- 3：公田官物率法について
- 4：公田官物率法をめぐる諸制度
- 5：官物率法と荘園（寺領）
- 6：官物率法と荘園（俗人領）
- 7：領主得分の成立
- 8：私領主と荘園
- 9：負名
- 10：在庁官人の所領
- 11：荘園支配の実態
- 12：荘園制の成立
- 13：官物・年貢と物流
- 14：信用と貨幣
- 15：まとめ (講義構成は変更することがあります)

8. 成績評価方法： レポートによる

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。毎回、資料を配付して講義する

No textbooks are required for this course. Reading and reference materials will be distributed in class.

10. 授業時間外学習：

講義担当者の下記論文を読むこと

佐藤泰弘「荘園制と都鄙交通」『日本史講座』第3巻

佐藤泰弘「受領の支配と在地社会」『岩波講座日本歴史 第5巻 古代5』

Students will be required to read the following publications by the course instructor:

Satō Yasuhiro, "Shōen to tohi kōtsū", in Nihon-shi Kōza, vol.3 (2004)

Satō Yasuhiro, "Zuryo no shihai to zaichi shakai", in Iwanami Kōza Nihon Rekishi dai-go-kan 'Kodai 5 (Iwanami Shoten, 2015).

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：堀 裕 (教授)

講義コード：LB52203, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

古代史料の研究 (2)

2. Course Title (授業題目)：

research of ancient historical materials

3. 授業の目的と概要：

日本古代史を学ぶための基本史料である『令義解』『令集解』をテキストとしてとりあげる。両書は、九世紀に編纂された養老令の官撰私撰注釈書である。記載された令本文と古代の法律家の注釈を精読するとともに、関連する史料も調査し、読解する。これにより、史料の特質を明らかにし、あわせて日本古代の社会や国家の特色を析出する。なお、授業では各回担当者が報告する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course aims to improve the students' ability to read the document of ancient Japanese law. Students are required to prepare for the assigned part of the designated handouts for each class. References(handouts) are provided.

5. 学習の到達目標：

日本古代の法典である律令に関する知識を得て、理解を深めるとともに、その内容から日本古代の歴史像を構築する力を養う。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

To gain the fundamental skills in reading Japanese sources. Students can deepen their understanding of the law and society of ancient Japanese.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス 『令義解』 『令集解』とは何か。講読のすすめかた。

2. 『令義解』 『令集解』を読む (1)

3. 『令義解』 『令集解』を読む (2)

4. 『令義解』 『令集解』を読む (3)

5. 『令義解』 『令集解』を読む (4)

6. 『令義解』 『令集解』を読む (5)

7. 『令義解』 『令集解』を読む (6)

8. 『令義解』 『令集解』を読む (7)

9. 『令義解』 『令集解』を読む (8)

10. 『令義解』 『令集解』を読む (9)

11. 『令義解』 『令集解』を読む (10)

12. 『令義解』 『令集解』を読む (11)

13. 『令義解』 『令集解』を読む (12)

14. 『令義解』 『令集解』を読む (13)

15. まとめ

8. 成績評価方法：

レポート (50%) 報告および討論などでの授業参加 (50%)

9. 教科書および参考書：

テキスト 新訂増補国史大系普及版『令集解』(吉川弘文館)。

10. 授業時間外学習：

オフィスアワーは金曜日 4 限です。来訪時は事前に連絡をください。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：堀 裕 (教授)

講義コード：LB62202, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

古代史料の研究 (1)

2. Course Title (授業題目)：

research of ancient historical materials

3. 授業の目的と概要：

平安時代を学ぶための基本史料である『小右記』をテキストとしてとりあげる。『小右記』は、平安時代中期の男性貴族の日記である。記載された内容を精読するとともに、関連する史料も調査し、読解する。このことにより、史料としての扱い方に習熟し、古記録に基づいた歴史像の構築の方法について理解を深める。なお、授業では各回担当者が報告する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course aims to improve the students' ability to read Heian era's document written by a male nobleman. Students are required to prepare for the assigned part of the designated handouts for each class. References (handouts) are provided.

5. 学習の到達目標：

日本古代の古記録、とくに男性貴族の記した日記に関する知識を得て、理解を深めるとともに、その内容から日本古代の歴史像を構築する力を養う。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

To gain the fundamental skills in reading Japanese sources. Students can deepen their understanding of the society of Heian era.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス 『小右記』とは何か。講読のすすめかた。

2. 『小右記』を読む (1)

3. 『小右記』を読む (2)

4. 『小右記』を読む (3)

5. 『小右記』を読む (4)

6. 『小右記』を読む (5)

7. 『小右記』を読む (6)

8. 『小右記』を読む (7)

9. 『小右記』を読む (8)

10. 『小右記』を読む (9)

11. 『小右記』を読む (10)

12. 『小右記』を読む (11)

13. 『小右記』を読む (12)

14. 『小右記』を読む (13)

15. まとめ

8. 成績評価方法：

レポート (50%)・授業での報告と討論への参加 (50%)

9. 教科書および参考書：

テキスト 『大日本古記録 小右記』1～11 (岩波書店)。購入の必要はない。

10. 授業時間外学習：

オフィスアワーは金曜 4 限になります。来訪の際は事前に連絡下さい。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：堀 裕 (教授)

講義コード：LB55301, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

古代史料研究 (1)

2. Course Title (授業題目)：

research of Japanese ancient historical materials

3. 授業の目的と概要：

8 世紀を中心とした歴史書『続日本紀』の講読を行う。『続日本紀』は、『日本書紀』のあとをうけて編纂された二番目の正史である。これをテキストとして古代史料の読解と史料としての扱い方に習熟し、研究課題を抽出する。授業は毎回担当者が報告を行う。できれば、現地見学会を実施する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course aims to improve the students' ability to read the document of ancient Japanese history. Students are required to prepare for the assigned part of the designated handouts for each class. References(handouts) are provided.

5. 学習の到達目標：

古代史料の読解力の養成と史料としての扱い方の習熟。さらには史料から研究課題を抽出する力をみがく。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

To gain the fundamental skills in reading Japanese sources. Students can deepen their understanding of ancient Japanese history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス 『続日本紀』と『類聚三代格』とは何か。講読のすすめかた。

2. 史料を読む (1)

3. 史料を読む (2)

4. 史料を読む (3)

5. 史料を読む (4)

6. 史料を読む (5)

7. 史料を読む (6)

8. 史料を読む (7)

9. 史料を読む (8)

10. 史料を読む (9)

11. 史料を読む (10)

12. 史料を読む (11)

13. 史料を読む (12)

14. 史料を読む (13)

15. まとめ

8. 成績評価方法：

レポート (50%) 報告と授業への参加 (50%)

9. 教科書および参考書：

テキスト 新訂増補国史大系普及版『続日本紀』前編・後編 (吉川弘文館)・同『類聚三代格』(同)

10. 授業時間外学習：

オフィスアワーは金曜 4 限になります。来訪の際は事前に連絡下さい。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practical business

12. その他：

古代史料研究 (1) (2) は連続履修すること。

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 3 講時

Semester：6, 単位数：2

担当教員：堀 裕 (教授)

講義コード：LB65301, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

古代史料研究 (1)

2. Course Title (授業題目)：

research of Japanese ancient historical materials

3. 授業の目的と概要：

8 世紀を中心とした歴史書『続日本紀』の講読を行う。『続日本紀』は、『日本書紀』のあとをうけて編纂された二番目の正史である。これをテキストとして古代史料の読解と史料としての扱い方に習熟し、研究課題を抽出する。授業は毎回担当者が報告を行う。できれば、現地見学会を実施する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course aims to improve the students' ability to read the document of ancient Japanese history. Students are required to prepare for the assigned part of the designated handouts for each class. References(handouts) are provided.

5. 学習の到達目標：

古代史料の読解力の養成と史料としての扱い方の習熟。さらには史料から研究課題を抽出する力をみがく。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

To gain the fundamental skills in reading Japanese sources. Students can deepen their understanding of the law and society of ancient Japanese.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス 『続日本紀』と『類聚三代格』とは何か。講読のすすめかた。

2. 史料を読む (1)

3. 史料を読む (2)

4. 史料を読む (3)

5. 史料を読む (4)

6. 史料を読む (5)

7. 史料を読む (6)

8. 史料を読む (7)

9. 史料を読む (8)

10. 史料読む (9)

11. 史料を読む (10)

12. 史料を読む (11)

13. 史料を読む (12)

14. 史料を読む (13)

15. まとめ

8. 成績評価方法：

レポート (50%) 報告と授業への参加 (50%)

9. 教科書および参考書：

テキスト 新訂増補国史大系普及版『続日本紀』前編・後編 (吉川弘文館)・同『類聚三代格』(同)

10. 授業時間外学習：

オフィスアワーは金曜 4 限になります。来訪の際は事前に連絡下さい。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practical business

12. その他：

古代史料研究 (1) (2) は連続履修すること。

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

Semester : 5, 単位数 : 2

担当教員：柳原 敏昭（教授）

講義コード：LB51301, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

鎌倉時代の法と社会(1)

2. Course Title (授業題目)：

The Law and Society of the Kamakura Period 1

3. 授業の目的と概要：

鎌倉幕府は、基本法典である御成敗式目を編纂し、そのほか多数の法令・行政命令を発した（追加法という）。それらは鎌倉時代の法・社会、政権の性格を解明する上での重要な史料である。この時間は、追加法および関連史料の精密な読解を通じて、鎌倉時代の法と社会について探究する。授業は受講生による発表と討論を中心として行なう。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Kamakura Shogunate compiled the basic regulations, Goseibai-shikimoku (御成敗式目). And it issued numerous additional laws and administrative orders, we say Tsuika-ho (追加法). These are important historical materials for clarifying the nature of the law, society and regime of the Kamakura period. In this class, we study the law and society of the Kamakura period through precise reading of Tsuika-ho and related historical materials. This class is a seminar style course intended to allow students to have in-depth discussion between themselves so that they can acquire abundant knowledge and identify a research issue.

5. 学習の到達目標：

- (1) 中世史料の基礎的な読解力を身につける。
- (2) 報告・討論の方法の基礎を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

- (1) To gain the fundamental skills in reading medieval Japanese sources.
- (2) It enhances the development of students' skill in making oral presentation and discussion.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) ガイダンス
- 2) 学生による報告と討論
- 3) 学生による報告と討論
- 4) 学生による報告と討論
- 5) 学生による報告と討論
- 6) 学生による報告と討論
- 7) 学生による報告と討論
- 8) 学生による報告と討論
- 9) 学生による報告と討論
- 10) 学生による報告と討論
- 11) 学生による報告と討論
- 12) 学生による報告と討論
- 13) 学生による報告と討論
- 14) 学生による報告と討論
- 15) 授業のまとめ

8. 成績評価方法：レポート [40%]・出席 [20%]・その他（授業中における発表の内容） [40%]

9. 教科書および参考書：

テキストは開講時に配付する。参考書は佐藤進一・池内義資編『中世法制史料集』第1巻・鎌倉幕府法（岩波書店）。

The text will be handed out at the beginning of the course. Reference book is SATO Shinichi and IKEUCHI Yoshisuke "Chusei-Housei-Shiryousyu".

10. 授業時間外学習：

報告者はおおよそ1月前から準備を行うこと。報告にあたっていない学生も、史料を読み、疑問点・問題点を整理した上で授業に臨むこと。

Students who are presenting are to prepare their presentations one month in advance. Students who are not presenting are to read the source materials and to prepare questions and comments before class.

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

受講者は日本中世史料に関する基礎知識をもっていることが望ましい。日本史演習「鎌倉時代の法と社会(1)(2)」(柳原担当)は連続履修すること。

It is recommended that participating students have basic skills in reading medieval Japanese sources. Students must take "The Law and Society of the Kamakura Period" 1 and 2 consecuti

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 3 講時

Semester：6, 単位数：2

担当教員：柳原 敏昭（教授）

講義コード：LB61302, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

鎌倉時代の法と社会(2)

2. Course Title (授業題目)：

The Law and Society of the Kamakura Period 2

3. 授業の目的と概要：

「鎌倉時代の法と社会(1)」の続講。単なる史料の読み方や基本的な知識を学ぶ場ではなく、問題点を発見し議論する場と位置づけているので、発表者には問題提起的な報告をすることが求められる。また、それ以外の受講生も主体的に議論に参加しなければならない。受講者が任意にテーマを選び報告する機会も設けたい。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This class is the continuation of “The Law and Society of the Kamakura Period 1” in the previous semester. This class aims to find issues and discuss them. Students who are presenting are required to make presentations that pose issues. Students who are not presenting are to read the source materials and to prepare questions and comments before class.

5. 学習の到達目標：

- (1) 中世史料の読解力を身につける。
- (2) 鎌倉時代の法と社会について理解を深める。
- (3) 報告・討論の方法の基礎を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

- (1) To gain the skills in reading medieval Japanese sources.
- (2) Students can deepen their understanding of the law and society of Kamakura era.
- (3) It enhances the development of students’ skill in making oral presentation and discussion.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) ガイダンス
- 2) 学生による報告と討論
- 3) 学生による報告と討論
- 4) 学生による報告と討論
- 5) 学生による報告と討論
- 6) 学生による報告と討論
- 7) 学生による報告と討論
- 8) 学生による報告と討論
- 9) 学生による報告と討論
- 10) 学生による報告と討論
- 11) 学生による報告と討論
- 12) 学生による報告と討論
- 13) 学生による報告と討論
- 14) 学生による報告と討論
- 15) 授業のまとめ

8. 成績評価方法：

レポート [40%]・出席 [20%]・その他（授業中における発表の内容、授業への参加度） [40%]

9. 教科書および参考書：

テキストは開講時に配付する。参考書は佐藤進一・池内義資編『中世法制史料集』第1巻・鎌倉幕府法（岩波書店）。

The text will be handed out at the beginning of the course. Reference book is SATO Shinichi and IKEUCHI Yoshisuke “Chusei-Housei-Shiryousyu”

10. 授業時間外学習：

報告者はおおよそ1月前から準備を行うこと。報告にあたっていない学生も事前に史料を読み、疑問点・問題点を整理してから授業に臨むこと。

Students who are presenting are to prepare their presentations one month in advance. Students who are not presenting are to read the source materials and to prepare questions and comments before class.

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○” Indicates the practical business

12. その他：

日本史演習「鎌倉時代の法と社会(1)(2)」(柳原担当)は連続履修すること。

Students must take “The Law and Society of the Kamakura Period” 1 and 2 consecutively.

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：柳原 敏昭（教授）

講義コード：LB51402, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

日本中世史の研究（1）

2. Course Title (授業題目)：

Study on Japanese Medieval History 1

3. 授業の目的と概要：

受講者各自が日本中世史にかかわる研究成果を報告し、全体で討論する。その中で研究方法を錬磨するとともに、研究発表・討議の技法について学ぶ。また、研究論文作成の一つのステップとする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Students present research findings on Japanese medieval history and discuss them. Through that, students refine their research methods and master about skills of presentation and discussion. Students will also learn how to write theses.

5. 学習の到達目標：

(1)日本中世史に関する高度な研究能力を身につける。

(2)報告・討論の方法を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

(1)Students acquire advanced research skills in medieval Japanese history.

(2)It enhances the development of students' skill in making oralpresentation and discussion.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1) ガイダンス

2) 学生による報告と討論

3) 学生による報告と討論

4) 学生による報告と討論

5) 学生による報告と討論

6) 学生による報告と討論

7) 学生による報告と討論

8) 学生による報告と討論

9) 学生による報告と討論

10) 学生による報告と討論

11) 学生による報告と討論

12) 学生による報告と討論

13) 学生による報告と討論

14) 学生による報告と討論

15) 授業のまとめ

8. 成績評価方法：

レポート [40%]・出席 [20%]・その他（授業中における発表の内容、授業への参加度） [40%]

9. 教科書および参考書：

特になし。

Nothing.

10. 授業時間外学習：

報告者は事前に十分な準備を行うこと。報告にあたっていない学生も、史料を読み、疑問点・問題点を整理した上で授業に臨むこと。

Reporters should make sufficient preparations in advance. Students who are not presenting are to read the source materials and to prepare questions and comments before class.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

日本古代・中世史研究演習「日本中世史の研究」(1)(2)は連続履修すること。

Students must take “Study on Japanese Medieval History ” 1 and 2 consecutively.

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：柳原 敏昭（教授）

講義コード：LB61402, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

日本中世史の研究 (2)

2. Course Title (授業題目)：

Study on Japanese Medieval History 2

3. 授業の目的と概要：

受講者各自が日本中世史にかかわる研究成果を報告し、全体で討論する。その中で研究方法を錬磨するとともに、研究発表・討議の技法について学ぶ。また、研究論文作成の一つのステップとする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Students present research findings on Japanese medieval history and discuss them. Through that, students refine their research methods and master about skills of presentation and discussion. Students will also learn how to write theses.

5. 学習の到達目標：

(1)日本中世史に関する高度な研究能力を身につける。

(2)報告・討論の方法を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

(1)Students acquire advanced research skills in medieval Japanese history.

(2)It enhances the development of students' skill in making oralpresentation and discussion.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1) ガイダンス

2) 学生による報告と討論

3) 学生による報告と討論

4) 学生による報告と討論

5) 学生による報告と討論

6) 学生による報告と討論

7) 学生による報告と討論

8) 学生による報告と討論

9) 学生による報告と討論

10) 学生による報告と討論

11) 学生による報告と討論

12) 学生による報告と討論

13) 学生による報告と討論

14) 学生による報告と討論

15) 授業のまとめ

8. 成績評価方法：

レポート [40%]・出席 [20%]・その他(授業中における発表の内容、授業への参加度) [40%]

9. 教科書および参考書：

特になし。

Nothing.

10. 授業時間外学習：

報告者は事前に十分な準備を行うこと。報告にあたっていない学生も、史料を読み、疑問点・問題点を整理した上で授業に臨むこと。

Reporters should make sufficient preparations in advance. Students who are not presenting are to read the source materials and to prepare questions and comments before class.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

日本古代・中世史研究演習「日本中世史の研究」(1)(2)は連続履修すること。

Students must take "Study on Japanese Medieval History " 1 and 2 consecutively.

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

Semester：5, 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光 (准教授)

講義コード：LB52402, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

近世史料研究 (1)

2. Course Title (授業題目)：

Early Modern Document Research (1)

3. 授業の目的と概要：

本講義では、近世史料の正確な読解能力を養成する。素材には、伊達騒動に関する記録である「桃遠境論集」を用いる。御家騒動の代表例として名高い伊達騒動に関する史料を読み進めながら、事件そのものはもちろんであるが、近世前期の武家社会、藩主と重臣の関係、藩内政治の実像、武家文書の特徴、仙台藩士の存在形態、村と境界の問題などを考えていく。原文書のコピーを使用するため、相当の古文書読解能力を必要とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course aims to improve the students' ability to read early modern Japanese document. Students are required to prepare for the assigned part of the designated handouts for each class. References(handouts) are provided.

5. 学習の到達目標：

(1)近世史料の基礎的な読解能力を身につける。(2)自ら問題・関心を発見し、深めるきっかけをつかむ。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

This is a seminar style course intended to allow students to have in-depth discussion between themselves so that they can acquire abundant knowledge and identify a research issue.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 伊達騒動について (1)
3. 伊達騒動について (2)
4. 史料読解の報告と討論 (1)
5. 史料読解の報告と討論 (2)
6. 史料読解の報告と討論 (3)
7. 史料読解の報告と討論 (4)
8. 史料読解の報告と討論 (5)
9. 史料読解の報告と討論 (6)
10. 史料読解の報告と討論 (7)
11. 史料読解の報告と討論 (8)
12. 史料読解の報告と討論 (8)
13. 史料読解の報告と討論 (10)
14. 史料読解の報告と討論 (11)
15. 史料読解の報告と討論 (12)

8. 成績評価方法：

出席 [20%]・レポート [40%]・その他 (報告の内容・討論への取り組みなど) [40%]

9. 教科書および参考書：

「桃遠境論集」(コピー配布) 参考書：大槻文彦『伊達騒動実録』(吉川弘文館)、『仙台市史』通史編 4 近世 2 (仙台市)、小林清治『伊達騒動と原田甲斐』(吉川弘文館)。

10. 授業時間外学習：

予習として、事前に配布された古文書のコピーについて古文書解読辞典を用いて読解し、文字・言葉の意味を各種辞典を用いて調べ、読み下し、現代語訳を作成する。受講後、講義内容をもとに自らの解釈の問題点を修正し、さらに習熟に努める。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

必ず「近世史料研究 (2)」と連続で受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20~17:50 (要予約)

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

Semester：6, 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光 (准教授)

講義コード：LB62401, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

近世史料研究 (2)

2. Course Title (授業題目)：

Early Modern Document Research (2)

3. 授業の目的と概要：

「近世史料研究(1)」の続講。近世史料の正確な読解や基礎的な知識を身につけ、その上で自ら論点を探り、深めていく。受講者には、講義への主体的な参加を求める。なお、必ず「近世史料研究(1)」と連続で受講すること。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course aims to improve the students' ability to read early modern Japanese document. Students are required to prepare for the assigned part of the designated handouts for each class. References(handouts) are provided.

5. 学習の到達目標：

(1)近世史料の基礎的な読解能力を身につける。(2)自ら問題・関心を発見し、深めるきっかけをつかむ。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

This is a seminar style course intended to allow students to have in-depth discussion between themselves so that they can acquire abundant knowledge and identify a research issue.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 史料読解の報告と討論(1)
3. 史料読解の報告と討論(2)
4. 史料読解の報告と討論(3)
5. 史料読解の報告と討論(4)
6. 史料読解の報告と討論(5)
7. 史料読解の報告と討論(6)
8. 史料読解の報告と討論(7)
9. 史料読解の報告と討論(8)
10. 史料読解の報告と討論(9)
11. 史料読解の報告と討論(10)
12. 史料読解の報告と討論(11)
13. 史料読解の報告と討論(12)
14. 史料読解の報告と討論(13)
15. 史料読解の報告と討論(14)

8. 成績評価方法：

出席[20%]・レポート[40%]・その他(報告の内容・討論への取り組みなど)[40%]

9. 教科書および参考書：

「桃遠境論集」(コピー配布) 参考書：大槻文彦『伊達騒動実録』(吉川弘文館)、『仙台市史』通史編4近世2(仙台市)、小林清治『伊達騒動と原田甲斐』(吉川弘文館)

10. 授業時間外学習：

予習として、事前に配布された古文書のコピーについて古文書解読辞典を用いて読解し、文字・言葉の意味を各種辞典を用いて調べ、読み下し、現代語訳を作成する。受講後、講義内容をもとに自らの解釈の問題点を修正し、さらに習熟に努める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practical business

12. その他：

必ず「近世史料研究(1)」と連続で受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20~17:50 (要予約)

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

semester：5, 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光 (准教授)

講義コード：LB53501, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

近世史研究法 (1)

2. Course Title (授業題目)：

Research Methods in Early Modern History (1)

3. 授業の目的と概要：

受講者各自が、日本近世史に関して自らの研究テーマに基づいて研究報告をし、それを参加者全員で討議する。研究の実践の場として、受講者自身の論文執筆に資することはもちろんであるが、報告・司会の方法に習熟し、加えて他の受講者の意見や報告を通じて新たな知見を得ることもねらいとする。大学院生レベルの内容であるが、日本近世史で卒業論文の執筆を希望する3年生・4年生は必ず受講すること。加えて、必ず「近世史研究法 (1)」と連続で受講すること。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course aims to acquire abundant knowledge and identify a research in early modern Japanese history. Positive participation in classes is expected.

5. 学習の到達目標：

(1) 日本近世史において、高度な資料読解能力と、自主的な研究能力を培う。(2) 報告・討論をもとに、分析をまとめ、研究論文の執筆を準備する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

This is a seminar style course intended to allow students to have in-depth discussion between themselves so that they can acquire abundant knowledge and identify a research issue.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 受講者による報告と討論 (1)
3. 受講者による報告と討論 (2)
4. 受講者による報告と討論 (3)
5. 受講者による報告と討論 (4)
6. 受講者による報告と討論 (5)
7. 受講者による報告と討論 (6)
8. 受講者による報告と討論 (7)
9. 受講者による報告と討論 (8)
10. 受講者による報告と討論 (9)
11. 受講者による報告と討論 (10)
12. 受講者による報告と討論 (11)
13. 受講者による報告と討論 (12)
14. 受講者による報告と討論 (13)
15. 受講者による報告と討論 (14)

8. 成績評価方法：

出席 [20%]・レポート [40%]・その他 (報告の内容・討論への取り組みなど) [40%]

9. 教科書および参考書：

特になし。

10. 授業時間外学習：

授業前・後に関係する論文等を読み、認識を深める。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

必ず「近世史研究法 (2)」と連続で受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20~17:50 (要予約)

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光 (准教授)

講義コード：LB63501, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

近世史研究法 (2)

2. Course Title (授業題目)：

Research Methods in Early Modern History (2)

3. 授業の目的と概要：

「近世史研究法 (1)」の続講。受講者は、自らの報告内容に講義中での議論を踏まえ、論文の執筆を目指していく。受講者には、主体的・積極的な議論への参加を求める。大学院生レベルの内容であるが、日本近世史で卒業論文の執筆を希望する 3 年生・4 年生は必ず受講すること。加えて、必ず「近世史研究法 (1)」と連続で受講すること。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course aims to acquire abundant knowledge and identify a research in early modern Japanese history. Positive participation in classes is expected.

5. 学習の到達目標：

(1) 日本近世史において、高度な資料読解能力と、自主的な研究能力を培う。(2) 報告・討論をもとに、分析をまとめ、研究論文の執筆を準備する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

This is a seminar style course intended to allow students to have in-depth discussion between themselves so that they can acquire abundant knowledge and identify a research issue.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 受講者による報告・討論(1)
3. 受講者による報告・討論(2)
4. 受講者による報告・討論(3)
5. 受講者による報告・討論(4)
6. 受講者による報告・討論(5)
7. 受講者による報告・討論(6)
8. 受講者による報告・討論(7)
9. 受講者による報告・討論(8)
10. 受講者による報告・討論(9)
11. 受講者による報告・討論(10)
12. 受講者による報告・討論(11)
13. 受講者による報告・討論(12)
14. 受講者による報告・討論(13)
15. 受講者による報告・討論(14)

8. 成績評価方法：

出席 [20%]・レポート [40%]・その他 (報告の内容・討論への取り組みなど) [40%]

9. 教科書および参考書：

特になし。

10. 授業時間外学習：

授業前・後に関係する論文等を読み、認識を深める。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

必ず「近世史研究法 (1)」と連続で受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20~17:50 (要予約)

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

Semester：5, 単位数：2

担当教員：安達 宏昭（教授）

講義コード：LB53303, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

近現代政治・社会史の研究 (1)

2. Course Title (授業題目)：

A study of the Modern Japanese Political and Social History (1)

3. 授業の目的と概要：

戦時期の陸軍の基礎資料である『機密戦争日誌』（大本営陸軍部戦争指導班の業務日誌）を読解し、関連する史料などと照合して、近現代日本の政治・社会について考察する。演習形式で行い、報告者に対する質問や討論により、受講者の各自の認識を深める。この学期において『機密戦争日誌』で主に読解する時期は、1940年分を予定している。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In this course, students will read the Japanese Army's basic document during the war, such as "Kimitsu Senso Niishi"(The Secret War diary), and check related documents, and consider politics and society in modern Japan.

This class is seminar form, and each time, the reporter selected among students will examine a certain range of biographies and presents it. Then students will ask questions and discuss the reporters.

This semester is scheduled to be read mainly in "Kimistu Senso Niishi"(The Secret War Journal) for 1940. This course will be taught in Japanese.

5. 学習の到達目標：

- (1) 史料を幅広い視点から分析できるようになる。
- (2) 史料分析を通して、時代状況を理解できるようになる。
- (3) 上記2つを通して日本近現代史に対する認識を深めることができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

(1) The purpose of this course is to help students will be possible to analyze historical documents from a broad perspective.

(2) Through historical analysis, students will be able to better understand modern characteristics.

(3) Through the above two t

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・『機密戦争日誌』の概要
2. 1940年ごろの陸軍に関する研究の把握
3. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (1)
4. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (2)
5. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (3)
6. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (4)
7. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (5)
8. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (6)
9. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (7)
10. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (8)
11. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (9)
12. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (10)
13. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (11)
14. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (12)
15. これまでの報告と討論のまとめ

8. 成績評価方法：

() 筆記試験 [%]・(○) リポート [40%]・(○) 出席 [20%]

(○) その他 (発表態度、受講態度) [40%]

9. 教科書および参考書：

参考書：『大本営陸軍部戦争指導班 機密戦争日誌 全二巻』（錦正社、1998年）

10. 授業時間外学習：

『機密戦争日誌』について、毎週、翌週の報告者が担当する箇所の記述を読んできて、その叙述に対する疑問点・問題点を、報告者に質問できるようにする。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

オフィスアワー：水曜日 16:20～17:50、要予約

履修要件：「近現代政治・社会史の研究 (1) (2)」(安達担当)は、原則として連続して履修すること。

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：安達 宏昭 (教授)

講義コード：LB63303, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

近現代政治・社会史の研究 (2)

2. Course Title (授業題目)：

A study of the Modern Japanese Political and Social History (2)

3. 授業の目的と概要：

前期の「近現代政治・社会史の研究」の続講。前期に使用した『機密戦争日誌』を継続して、演習形式で読解を行う。報告者に対する質問や討論により、受講者の各自の認識を深める。この学期において、『機密戦争日誌』で主に読解する時期は、1941 年度分を予定している。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In this course, students will read "Kimistu Senso Niishi" (The Secret War Diary) , and check related documents, and consider politics and society in modern Japan.

This class is seminar form, and each time, the reporter selected among students will examine a certain range of biographies and presents it. Then students will ask questions and discuss the reporters.

Reading the Diary at this semester is mainly 1941. This course will be taught in Japanese.

5. 学習の到達目標：

- (1) 史料を幅広い視点から分析できるようになる。
- (2) 史料分析を通して、時代状況を理解できるようになる。
- (3) 上記 2 つを通して日本近現代史に対する認識を深めることができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

(1) The purpose of this course is to help students will be possible to analyze historical documents from a broad perspective.

(2) Through historical analysis, students will be able to better understand modern characteristics.

(3) Through the above two t

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・『機密戦争日誌』の概要
2. 戦前期日本陸軍の先行研究の把握・検討
3. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (1)
4. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (2)
5. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (3)
6. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (4)
7. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (5)
8. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (6)
9. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (7)
10. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (8)
11. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (9)
12. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (10)
13. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (11)
14. 『機密戦争日誌』についての報告と討論 (12)
15. これまでの報告と討論のまとめ

8. 成績評価方法：

() 筆記試験 [%]・(○) リポート [40%]・(○) 出席 [20%]

(○) その他 (発表態度、受講態度) [40%]

9. 教科書および参考書：

参考書：『大本営陸軍部戦争指導班 機密戦争日誌 全二巻』(錦正社、1998 年)

10. 授業時間外学習：

『機密戦争日誌』について、毎週、翌週の報告者が担当する箇所の記述を読んできて、その叙述に対する疑問点・問題点を、報告者に質問できるようにする。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

オフィスアワー：水曜日 16:20~17:50、要予約

履修要件：「近現代史研究法 (1) (2)」(安達担当) は、原則として連続して履修すること。

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：安達 宏昭 (教授)

講義コード：LB52502, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

近現代史研究法 (1)

2. Course Title (授業題目)：

Method of Studies on Japanese Modern History (1)

3. 授業の目的と概要：

近現代史における基礎的な研究内容について学び、受講者相互に認識を深めるとともに、各自が研究テーマを設定して、その問題関心、視角、実証分析について発表する。そして、それに対する討論を通して、発表者の研究方法について課題を明確にする。なお、日本近現代史の時期を対象にする卒業論文を書こうと考えている者は、必ず受講すること。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

In this class, students will study basic research contents in modern history, set their own research themes, and present their interests, viewing angles, and empirical analysis. Then, through discussions, clarify issues regarding the presenter's research methods. This course will be taught in Japanese.

5. 学習の到達目標：

- (1) 先行研究を分析・批判して、自らの研究課題を選定できるようになる。
- (2) 自らの研究課題にそって、自分で史料を収集し分析できるようになる。
- (3) 上記の2つの点をふまえて、歴史研究の研究論文をまとめることができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

- (1) Students will be able to analyze and criticize previous research and select their own research issues.
- (2) Students will be able to collect and analyze historical documents according to their own research issues.
- (3) Based on the above two points, s

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・日本近現代史研究の意義
2. 受講者の研究報告と討論 (1)
3. 受講者の研究報告と討論 (2)
4. 受講者の研究報告と討論 (3)
5. 受講者の研究報告と討論 (4)
6. 受講者の研究報告と討論 (5)
7. 受講者の研究報告と討論 (6)
8. 受講者の研究報告と討論 (7)
9. 受講者の研究報告と討論 (8)
10. 受講者の研究報告と討論 (9)
11. 受講者の研究報告と討論 (10)
12. 受講者の研究報告と討論 (11)
13. 受講者の研究報告と討論 (12)
14. 受講者の研究報告と討論 (13)
15. 受講者の研究報告と討論 (14)

8. 成績評価方法：

() 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [40%] ・ (○) 出席 [20%] ・ (○) その他 (発表態度、受講態度) [40%]

9. 教科書および参考書：

特になし。

10. 授業時間外学習：

報告者の研究テーマに関する史実などを、事前に学習しておく。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

オフィスアワー：水曜日 16:20~17:50、要予約

履修要件：「近現代史研究法 (1) (2)」(安達担当) は、原則として連続して履修すること。

科目名：日本史演習／ Japanese History (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 5 講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：安達 宏昭（教授）

講義コード：LB62501, 科目ナンバリング：LHM-HIS306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

近現代史研究法 (2)

2. Course Title (授業題目)：

Method of Studies on Japanese Modern History (2)

3. 授業の目的と概要：

日本史演習（近現代史研究法（1））の研究発表をふまえて、さらに研究を進めて、その成果を報告する。そして、討論を通して課題を絞り、論文などにまとめていく。このことを通して、受講者が、日本近現代史における現在の研究内容について学び、新しい歴史研究の構築とその内容の理解について認識を深める。

なお、日本近現代史の時期を対象にする卒業論文を書こうと考えている者は、必ず受講すること。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

Based on the research presentation of the Seminar on Japanese History (Method of Studies on Japanese Modern History (1)), students will further research and report the results.

Then, through discussions, students narrow down the issues and summarize them into papers.

Through this, participants deepen their understanding of the contents of Japanese modern historical studies. This course will be taught in Japanese.

5. 学習の到達目標：

(1) 先行研究を分析・批判して、自らの研究課題を選定できるようになる。

(2) 自らの研究課題にそって、自分で史料を収集し分析できるようになる。

(3) 上記の2つの点をふまえて、歴史研究の研究論文をまとめることができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

(1) Students will be able to analyze and criticize previous research and select their own research issues.

(2) Students will be able to collect and analyze historical documents according to their own research issues.

(3) Based on the above two points, s

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・日本近現代史研究の意義

2. 受講者の研究報告と討論 (1)

3. 受講者の研究報告と討論 (2)

4. 受講者の研究報告と討論 (3)

5. 受講者の研究報告と討論 (4)

6. 受講者の研究報告と討論 (5)

7. 受講者の研究報告と討論 (6)

8. 受講者の研究報告と討論 (7)

9. 受講者の研究報告と討論 (8)

10. 受講者の研究報告と討論 (9)

11. 受講者の研究報告と討論 (10)

12. 受講者の研究報告と討論 (11)

13. 受講者の研究報告と討論 (12)

14. 受講者の研究報告と討論 (13)

15. 受講者の研究報告と討論 (14)

8. 成績評価方法：

() 筆記試験 [%] ・ (○) レポート [40%] ・ (○) 出席 [20%] ・ (○) その他 (発表態度、受講態度) [40%]

9. 教科書および参考書：

特になし。

10. 授業時間外学習：

報告者の研究テーマに関する史実などを、事前に学習しておく。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

オフィスアワー：水曜日 16:20～17:50、要予約

履修要件：「近現代史研究法 (1) (2)」(安達担当) は、原則として連続して履修すること

科目名：日本史実習／ Japanese History (Field Work)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時. 前期 金曜日 5 講時

Semester：5, 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光 (准教授)

講義コード：LB55402, **科目ナンバリング：**LHM-HIS307J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

史料整理・保存の理論と方法

2. Course Title (授業題目)：

Document Organization and Preservation: Purpose and Methods

3. 授業の目的と概要：

歴史学は、史料の内容を理解することに大きな比重を置く学問である。しかし、その一方で史料はモノとしての側面も持っている。文字・画像の情報だけではなく、史料そのものを永く保存し、人類共有の文化遺産として後世に伝えなければならない。そのためには史料の特質や史料群の構造を理解し、史料そのものを正しく取り扱い、適切に保存していく理論と方法を学ぶ必要がある。この講義では、史料の保存・活用のための学問であるアーカイブズ学についてその基礎を学ぶ。さらにそれをもとにして、博物館・図書館などの機能の相違や、実物史料の取り扱い方、史料の撮影や目録編成の理論などについて学んでいく。なお、受講に際し、相当の古文書読解能力が必要となるので、事前に古文書学あるいは古文書関係の講義等を受講していることが望ましい。また、実物の史料に触れることがあるので、特に丁寧な取り扱いを心がけてほしい。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course aims to improve the students' ability to read and handle Japanese document. Positive participation in classes is expected.

5. 学習の到達目標：

史料保存の意義と理論・方法について理解し、史料の調査・整理・保存に関する基礎的知識を習得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Students will develop skills needed to handle real Japanese document.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・史料保存の意義と意味 (1)
2. 史料保存の意義と意味 (2)
3. 文書館・図書館・博物館-史料保存機関の性格と特色-
4. アーカイブズの理論(1)
5. アーカイブズの理論(2)
6. 史料調査・整理の実際
7. 目録論
8. 目録作成の技術 (1)
9. 目録作成の技術 (2)
10. 歴史資料の取り扱いとその実践
11. デジタルカメラの取り扱いと撮影の実際
12. マイクロフィルム・カメラの取り扱い
13. フィールド実習
14. 史料整理の基礎 (1)
15. 史料整理の基礎(2)

8. 成績評価方法：

出席[20%]・受講態度[40%]・レポート[40%]

9. 教科書および参考書：

随時プリントを配布する。参考書：安藤正人・大藤修『史料保存と文書館学』（吉川弘文館）。

10. 授業時間外学習：

授業前・後に関係する論文等を読み、認識を深める。

11. 実務・実践的授業/Practical business：○

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

必ず「史料整理実習」と連続して受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50 (要予約)

科目名：日本史実習／ Japanese History (Field Work)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時. 後期 金曜日 5 講時

Semester : 6, 単位数 : 2

担当教員：籠橋 俊光 (准教授)

講義コード：LB65403, 科目ナンバリング：LHM-HIS307J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

史料整理実習

2. Course Title (授業題目)：

Practicum in Document Organization

3. 授業の目的と概要：

実際に史料整理を行う。大規模な文書群を対象として取り上げ、史料の取り扱い、現状の把握、基本データの採録、目録作成、保存に向けての作業など、史料整理に関する基本的な実務を実際に行う。さらに、自ら整理した史料について、その個別の内容の理解だけではなく、文書群のなかにおける位置づけや文書群そのものの構造など、幅広く文書群を把握する方法を学ぶ。なお、受講に際し、相当の古文書読解能力が必要となるので、事前に古文書学あるいは古文書関係の講義等を受講していることが望ましい。また、実物の史料に触れるので、その際には特に丁寧な取り扱いを心がけてほしい。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course aims to improve the students' ability to read and handle Japanese document. Positive participation in classes is expected.

5. 学習の到達目標：

実際に実物の史料を整理し、「史料整理・保存の理論と方法」において学習した史料整理の理論と方法を体得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Students will develop skills needed to handle real Japanese document.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 史料整理実習 (1)
3. 史料整理実習 (2)
4. 史料整理実習 (3)
5. 史料整理実習 (4)
6. 史料整理実習 (5)
7. 史料整理実習 (6)
8. 史料整理実習 (7)
9. 史料整理実習 (8)
10. 史料整理実習 (9)
11. 史料整理実習 (10)
12. 史料整理実習 (11)
13. 史料整理実習 (12)
14. 史料整理実習 (13)
15. 史料整理実習 (14)・整理内容報告

8. 成績評価方法：

出席[30%]・受講態度[70%]

9. 教科書および参考書：

各自古文書読解用辞典類を持参すること。

10. 授業時間外学習：

前期内容を十分に復習し、あわせて古文書読解の練習に努める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：○

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

必ず「史料整理・保存の理論と方法」と連続して受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20~17:50 (要予約)

